

(その他) 竜美丘小学校 3年

「ぼくたちキッズリーダーズ!!」～読書の楽しさを伝えよう・広げよう～

9月～3月(44時間)

1 ねらい

- ・進んで読書して楽しさを知り、それを周囲の人に伝える活動の中で、問題を見つけることができる。(見つける力)
- ・読書する楽しさや周囲の人に伝え広げる活動の中で抱いた問題を、自分なりの方法で解決することができる。(考える・調べる力)
- ・追究活動から得たことを自分のできる表現活動を考え、分かりやすく伝えることができるようにする。(表現する力)
- ・読書活動を通し、自分の成長を振り返るとともに、充実感、達成感、感謝される喜びを確認して自信を持ち、進んで自分ができることを考えて実践することができる。(生かす力)

2 実践の概要

(1) 学習計画

	学 習 の 流 れ	時間	備 考
二 学 期	○本読み活動について知る ・自分の好きな本を伝え合う。 ・家族や友達同士で読み聞かせをし、問題点を出し合う。 ・地域の本読みおばさんや読書活動をしている専門家からいろいろな読書活動や相手が喜ぶ読み聞かせ活動について学ぶ。	20	・地域の本読みおばさん・本作りや読書活動の専門家などとの交流  ・本校低学年との交流
	○本読み活動を伝え広げる ・2年生の子たちに読み聞かせをする計画を立てて実践する。 ・読み聞かせ活動の振り返りをし、次に生かす。 ・「読み聞かせ新聞」を作り、グループごとの活動をお互いに見合い、自分たちの活動に生かす。	14	
三 学 期	・1年生の子たちに読み聞かせをする計画を立てて実践する。 ・読み聞かせ活動の振り返りをし、次に生かす。 ・「読み聞かせ新聞」を作り、グループごとの活動をお互いに見合い、自分たちの活動に生かす。 ○1年間の自分の追究や成長を振り返る ・3月の自分を評価項目に照らし合わせて自己評価する。 ・友達同士でお互いの頑張りを評価する。 ・最後の授業参観で今までの活動で学んだことを発表する。	10	

(2) 教師支援と具体的な手立て

- ①読書に興味に向くように、朝の読書タイム、図書委員会による読書活動には、本にしっかりと向かわせるように読書時間をきちんと確保する。
- ②初回の「読み聞かせ」は抵抗なく行うために、相手を家族とする。また、いっしょに読む活動でもよいこととする。
- ③「読み聞かせ」を行った後には、話し合い活動を行い、自分の活動を反省するとともに、お互いの活動を知るようにする。(自己評価)
- ④「読み聞かせ」を通して大切なことは何かを話し合うときに、自分たちの話し合いだけに終わらせずに実際に活動している「本読みおばさん」に来校してもらい聞く機会を持つ。
- ⑤問題を解決するためにできるだけ自分たちで考え「本読みおばさん」にはすぐに答えを出してもらわないように依頼する。
- ⑥話し合いでは、自分行った「読み聞かせ」を基に具体的な意見が出るように指示をしたり、具体的な例をあげて一番重要なのは本選びであることに気付くようにする。
- ⑦1・2年生に「読み聞かせ」をさせてもらい、子どもたちや担任から感想をもらうよう

に頼んでおく。良い感想を強調し、やってよかったと感じ意欲的に次の活動に生きるようにする。(他者評価)

⑧グループ同士でお互いの活動を見合い、それぞれに気付いたことを伝え合う場を設ける。(他者評価)

⑨3学期に行う「読書まつり」を計画するとき参考になるよう、できるだけいろいろな活動を行っておく。

⑩1年の活動を振り返り、「なりたい自分」になれたか、また、どんな力が身に付いたかなど、今までの記録をもとに反省する時間を持つ。

⑪一緒に活動してきた友達のよいところを見つけてカードに書き交換し、自分の良さを確認し、自信が持てるようにする。

### (3) 実践

#### ①読書の楽しさを味わう。

毎週水曜日の「本読みおばさん」による読み聞かせ、毎朝10分の「読書タイム」、図書委員主催による学期に一度の読書週間の20分間の読書タイムなどを通して集中して読書をするようになってきた。登校してすぐに、また、休み時間、給食の待ち時間なども読書する子が増え少しずつ読書することの楽しさを感じる子がふえてきた。

また、『だって』『へんてこへんてこ』『おまえうまそうだな』などの続き話作り、読書郵便コンテストや読書感想画コンクールへの応募、しおり作り、学年間での読書郵便の交換など、いろいろな読書活動を考えて行うことで読書活動への関心も高まっていった。

#### ②読書の楽しさを伝え広げる。

まず、安心してできる「家族」に対して3回、次に友達同士読み聞かせを1回行った。活動後は必ず反省をした。少しずつなれてくると、次に2年生に読み聞かせをしたいということになった。しかし、反省では、技術的な問題点を挙げる事が多く、少し自分たちの読み聞かせに息詰まりを感じたことや不安を感じていた子もいた。そこで、「本読みおばさん」に、話を聞こうという計画を立てた。

事前に「読み聞かせをするのに一番大切なことはどんなことか」という質問にをすると、38人中34人が読み方(速さ、声の大きさ、会話など)や本の持ち方など技術的なことを挙げ、4人だけが本選びが大切だという。そこで「本読みおばさん」に来校して頂き、質問を受けてもらったり、普段気をつけていることについて話をしてもらったりした。すると34人が「本選びが一番大切である」ことに気づいた。また、1冊の本を決めるのに季節、行事、絵の大きさなどいろいろなことを考えて多くの本の中から選ぶことや、何度も読み、さらに鏡の前でも練習することなどを聞くことで読み手としてだけでなく、聞き手としての意識も変わっていった。

2年生への読み聞かせを行うにあたっての本選びは、今まで以上に慎重に行い、「本読みおばさん」から頂いた今までの本のリストや聞き手である「2年生」の希望を参考にした。対象が「2年生」であることは、家族や友達とは違う緊張感があり、それだけにやりがいを感じていた。

読み聞かせは静かに聞いてくれたが、活動直後の感想はあまりなかったこともあって、聞き手がどのような感想を持ったかを心配していた。しかし、2年生から「楽しかったよ。ありがとう。」「お話がおもしろかった。また読んでね。」などのメッセージが届くと、満足感と少し自信を持つことができた。

#### (4) 反省と課題

読書活動に対しての目標を持って取り組むことはできるようになってきたが、個人の課題よりも学級の課題になり、みんなで課題解決していくことが多くなりがちであった。今後「読み聞かせ」繰り返すことで親密間もまし、心の通う「読み聞かせ」になることだろう。活動後の自己反省だけでなく、聞き手である家族・友達・低学年からの評価やメッセージは、次の活動へのエネルギーとなった。他者評価や、「本読みおばさん」の来校も有効であった。



(写真)読み聞かせについての話を下さる「本読みおばさん」